

The 21st Academic Conference of Japanese Society of Nursing Art and Science

一般社団法人

日本看護技術学会 第21回学術集会

講演抄録集

熊本

ニューノーマル時代と看護技術

Nursing art and science

2023年10月

日本看護技術学会 第21回学術集会

学術集会長 前田 ひとみ

The 21st Academic Conference of Japanese Society of Nursing Art and Science

一般社団法人

日本看護技術学会 第21回学術集会

講演抄録集

ニューノーマル時代と看護技術

Nursing art and science.

会 期 ● 2023年 10月14日^土・15日^日

会 場 ● 市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)
熊本市国際交流会館

学術集会長 ● 前田 ひとみ 熊本大学 副学長／熊本大学大学院生命科学研究部 教授

学術集会事務局 ● 熊本大学大学院生命科学研究部 基盤看護学講座
〒862-0976 熊本市中央区九品寺 4-24-1

運営事務局 ● (株)コンベンションサポート九州
〒862-0975 熊本市中央区新屋敷 1-14-35 クロススクエア熊本九品寺 7F
TEL : 096-373-9188 FAX : 096-373-9191
E-mail : jsnas21@higo.co.jp

ご 挨 拶

一般社団法人日本看護技術学会

第21回学術集会

学術集会長 前田 ひとみ

熊本大学 副学長

熊本大学大学院生命科学研究部 教授

一般社団法人日本看護技術学会第21回学術集会は、「ニューノーマル時代の看護技術」をメインテーマに、2023年10月14日(土)・15日(日)の2日間にわたり、熊本市で開催させていただきます。4年ぶりの対面での学術集会となります。

2023年の世界の総人口は約80億4,500万人(国連人口基金)となり、年々増加しています。しかし、その動向パターンは地域によって様々であり、健康問題は多岐にわたっています。日本においては、少子高齢化による労働力不足や社会保障における課題解決に向けて、限りある資源を有効に使い、質の高い看護を提供するための保健医療サービスの仕組みの改革とともに、時代に即した高度な看護技術の開発と看護実践の挑戦が求められます。デジタル化や人工知能の導入は看護分野にも大きな恩恵をもたらしています。

2020年度に全地球を襲った新型コロナウイルス感染症は未だに人々の健康と暮らしに大きな影響を与えています。そのような中、医療及び教育の最前線の現場で繰り広げられた看護実践の創意工夫を通して、これまでの看護技術を基盤に新たな看護技術の知見を蓄積することができました。第21回学術集会では、会長講演、特別講演、教育講演3セッション、シンポジウム2セッションの合計7つのキーセッションを企画しました。特別講演では、熊本大学大学院人文社会科学研究所 小畑弘己氏が開発された軟X線やCTを用いた独自の調査法による「土器」の中に埋め込まれたタネやムシが語る新たな世界についてご講演いただきます。教育講演では看護技術教育(キーセッション3)、睡眠(キーセッション4)、シンポジウムではメディカルフィットネス(キーセッション5)、子育て支援(キーセッション6)をキーワードにした企画を計画しました。また、キーセッション7(教育講演)では本学会の名誉会員である川嶋みどり氏から、COVID-19パンデミック下での創造的实践を通した看護技術の可能性についてご講演いただきます。

また、本学術集会の開催に際し、口頭発表40題、示説17題、卒業研究交流セッション5題の研究発表と委員会企画交流セッション6題、会員企画の交流セッション7題に加え、日本看護技術学会・看護理工学会・看護人間工学会3学会合同セッション、ランチョンセミナー3題と多くの方々から興味深いプログラムをお申込みいただき、心から感謝申し上げます。

コロナ禍による社会の大きな変化によって、これまでの常識が通用しなくなり、新たな常識へと考え方の変更が求められる時代となってきました。学術集会にご参加いただきました皆様と熊本の地で対面による熱い議論を交わすことで、看護技術開発のヒントが得られることを楽しみにしております。皆様にとって本学術集会が有意義な2日間となるよう主催者一同万全の準備を重ねて、多くの方々のご参加をお待ちしております。

会場アクセス図



◆熊本空港から(バス・タクシー)

熊本空港(阿蘇くまもと空港)

バス(熊本駅行
1番乗り場
約50分 1,000円)

桜町バスターミナル

徒歩(約2分)

熊本市市民会館(市民会館シアーズホーム夢ホール)
国際交流会館

タクシー
(約40分
約5,200円)

◆熊本駅から(路面電車・タクシー)

熊本駅

路面電車
(約15分 180円)

花畑町電停

徒歩(約2分)

熊本市市民会館(市民会館シアーズホーム夢ホール)
国際交流会館

タクシー
(約10分
約1,000円)

会場案内図

熊本市民会館(市民会館シアーズホーム夢ホール)

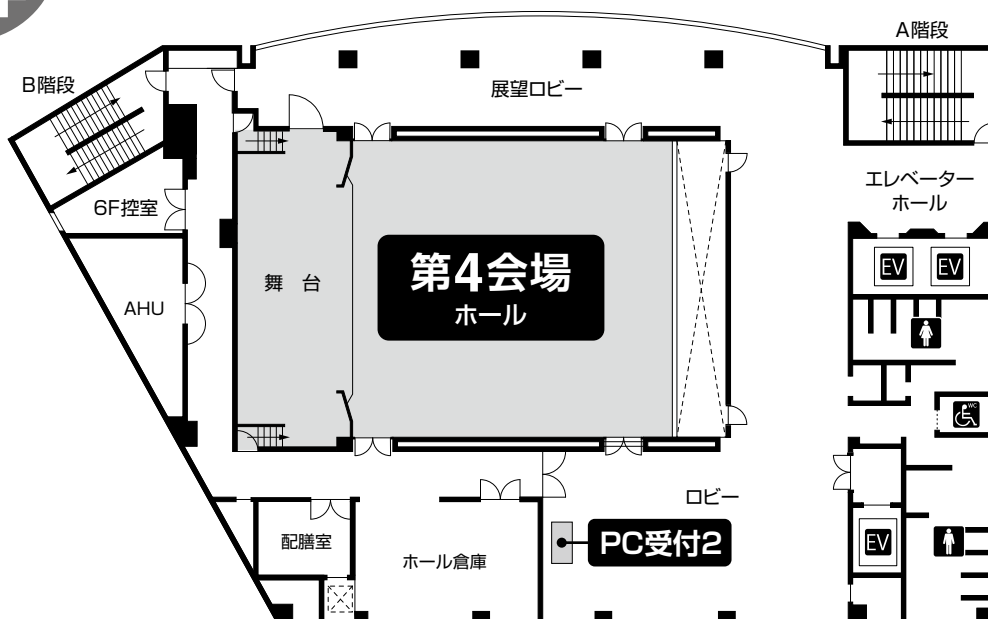


熊本市国際交流会館

4F



6F



参加者へのご案内

1. 開催日時

- 1日目 10月14日(土) 9:00～17:15 (受付時間8:30～16:00)
2日目 10月15日(日) 9:00～15:00 (受付時間8:30～13:00)

2. 参加受付について

ご入場の際、ならびに会場内では、必ず参加証(ネームカード)を身につけてください。

※会場設置のネームホルダーを使用してご着用ください。

受 付：市民会館シアーズホーム夢ホール 1階 大ホールホワイエ

受付時間：1日目 10月14日(土) 8:30～16:00
2日目 10月15日(日) 8:30～13:00

■ 事前参加登録にてお申込みの方へ

- ・事前参加登録を8月31日(木)までにお申込みいただき、入金確認が出来た方には、ご登録の住所に「参加証兼領収書(ネームカード)・講演抄録集」を9月下旬に事前郵送いたします。当日は、会場設置のネームホルダーを使用してご着用ください。
- ・参加証兼領収書(ネームカード)・講演抄録集は忘れずにご持参ください。なお、送付物の再発行はいたしかねますので予めご了承ください。

■ 当日参加登録にて参加申込をされる方へ

- ・当日申込の方は、記名台に設置の「当日参加申込書」にご記入の上、「当日受付」にて参加費をお支払いください。
- ・参加費のお支払いと引き換えに、参加証兼領収書(ネームカード)、講演抄録集をお受取りください。
- ・当日受付は現金のみとなります。ご了承ください。

区分	事前参加登録費 2023年8月31日まで	当日参加費
会 員 ※1	10,000円	11,000円
非会員	11,000円	12,000円
学 生 ※2		2,000円 ※抄録集を含みません

※1 会員として参加する場合は、2023年8月31日(木)までに、日本看護技術学会 事務局(学術集会事務局とは異なります)に入会申込書を提出した方に限ります。なお、年会費と学術集会参加費は異なりますのでご注意ください。

※2 学生とは、基礎教育課程の学生を意味し、「保健師・助産師・看護師」の有資格者は含みません。学生の参加登録は全て当日の受付となります。必ず受付に学生証をご提示ください。学生証の提示がない場合は、学生として登録ができませんのでご注意ください。学生区分の参加費には講演抄録集を含みません。必要な方は当日総合案内にて別途購入ください(2,000円)。

3. 懇親会

本年は懇親会の開催を見合わせることにいたしました。ご了承ください。

4. 講演抄録集の販売

10月14日(土)、15日(日)の両日、受付設置の総合案内にて2,000円で販売いたします。

5. 共催セミナー(ランチョンセミナー)に関するご案内

■ 共催セミナー(ランチョンセミナー) 整理券配布について

日 時	配布場所
10月14日(土) 8:30～11:00	共催セミナーチケット配布ブース ※市民会館シアーズホーム夢ホール 1階 大ホールホワイエ 受付横
10月15日(日) 8:30～11:00	

※整理券は、先着順、お一人様1枚の配付といたします。

※枚数には限りがございますのでご了承ください。

※配布時間終了後、チケットがある場合は各ランチョンセミナー会場前にて配布いたします。

※ランチョンセミナー開始10分後に整理券は無効となりますので、予めご了承ください。

6. クローク

場 所：市民会館シアーズホーム夢ホール 1階 大ホール ホワイエ

開設時間：1日目 10月14日(土) 8:30～17:30

2日目 10月15日(日) 8:30～15:30

※荷物のお預かりは当日のみとなります。日をまたいでの荷物のお預かりはできません。

※荷物はできる限りまとめていただきますよう、ご協力をお願いいたします。

※貴重品・壊れ物(PC含む)・傘はお預かりできません。

7. 昼食・飲食について

- ・会期中は両日ともランチョンセミナーを開催いたします。
- ・示説会場にコーヒーサービス(企業協賛)がございます。
- ・飲食施設をご利用の際は、市民会館シアーズホーム夢ホール内の飲食施設、国際交流会館内のカフェスペース、近隣のサクラマチや城彩苑の飲食施設等をご利用ください。

8. 託児サービスについて

会期中、託児室を設置します。

※事前予約の方のみ対象となります。ご了承ください。

9. 会場内の遺失拾得物について

学術集会期間中は、総合案内(市民会館シアーズホーム夢ホール 1階 大ホールホワイエ)にて受付・管理いたします。

10. 会場内の撮影・録画等について

会場内の撮影および録音・録画などは一切お断りいたします。ただし、示説については直接発表者にご確認ください。

11. その他

- ・会場内でのスライドやアナウンスによる呼び出しは行いません。
- ・会場内は禁煙です。
- ・講演会場内においては、携帯電話機器の電源をお切りいただくか、マナーモードに設定してください。
- ・ランチョンセミナーを除き、講演会場での飲食はご遠慮ください。

座長・演者へのご案内

■キーセッション・一般演題(口演)・卒業研究交流セッションについて

キーセッション座長および演者の方へ

- ・セッション開始1時間前までに演者・座長受付にお越しください。
- ・受付終了後、控室にて打合せをお願いいたします。
- ・演者の方は、セッション開始1時間前まで(早い時間のプログラムは受付開始時刻)にPC受付にてデータチェックをお願いします。
- ・演者の方は、「PC受付について」、「PCデータ作成のお願い」の項目をご確認の上、発表データの作成及び当日のデータ受付をお願いいたします。
- ・セッション開始10分前には、演者の方は会場内前方左側の次演者席、座長の方は前方右側の次座長席にご着席ください。

一般演題(口演)・卒業研究交流セッションの座長および発表者の方へ

I. 座長の方へ

- ・ご担当セッションの開始1時間前までに(朝一番のプログラムは受付開始時刻に)「演者・座長受付」へお越しください。
- ・ご担当セッション開始時間10分前までに該当会場内、前方右側の次座長席にご着席ください。
- ・発表者に欠席がでた場合は、発表時間を繰り上げて進行してください。
- ・直前のセッションが繰り上げて終了しても、ご担当セッションは予定時刻に開始してください。
- ・ご担当セッションの進行は座長の方に一任いたします。
- ・一般演題(口演)は1演題15分(口演10分、質疑応答5分)、卒業研究交流セッションは1演題10分(口演7分、質疑3分)です。時間厳守での進行をお願いします。
- ・座長推薦演題の選出については、記入用紙を所定の封筒に入れ、会場係にお渡しください。

II. 演者の方へ

1. 受付について ※PC受付にお越しください。

- ・「演者・座長受付」での確認はありません。PC受付での発表データの登録・確認をお願いします。
- ・発表開始の30分前までに(PC持込の場合は1時間前までに)「PC受付」にて発表データの登録・確認を行ってください。
※2日目のご発表データも1日目から登録できます。朝は混雑が予想されますので、お早めに登録をお願いいたします。
- ・発表データはUSBメモリーにてお持ちください(CD-R等はお受けできません)。
- ・PC持込の場合は発表の30分前までに会場内左手前方のオペレーションデスクまでお越しください。

2. 発表について

- ・発表会場には、発表セッションの開始時間10分前までにお越しいただき、前方左側の次演者席にご着席ください。
- ・発表時間については下記の通りです。時間厳守をお願いいたします。
一般演題(口演) 1演題15分(口演10分、質疑応答5分)
卒業研究交流セッション 1演題10分(口演7分、質疑3分)
- ・発表時に資料を配布することはできません。

- 演台に設置のキーボードもしくはマウスをご自身で操作して発表を行ってください。
- 発表時に発表者ツールの使用はできません。
- スライドの枚数に制限はありませんが、発表は時間厳守でお願いします。
(発表時間は、持ち時間1分前でベル1回、終了時にベル2回でお知らせいたします。)

■交流セッションについて

交流セッションの主催者・関係者の方へ

1. 受付について

- 代表者はセッション開始の1時間前(朝一番のプログラムは受付開始時刻)までに「座長・演者受付」で受付をしてください。

2. 運営方法について

- 運営は主催者の責任のもと、主体的に行ってください。準備・後片付けも含めて時間内に終了するようお願いします。
- 金銭授受のある活動は禁止します。

3. 会場設備・備品について

〈第1会場・第2会場のセッションの方へ〉

◎会場設備・備品

- 会場は講演会場となっております。ステージ形式の演台となり、会場席はシアター形式となります。座席の変更が出来かねますのでご了承ください。
- 発表データはオペレーションデスクから投影します。会場には、プロジェクター、スクリーン、演者・座長・質疑用のマイク数本を用意しています。
- 演台にはモニター、キーボード、マウス、レーザーポインターをご用意いたします。その他に必要な機材は各自で準備となります。
- 大型の機材・備品の持ち込みを希望される場合は、運営事務局(メール: jsnas21@higo.co.jp)へ事前にご連絡いただき、ご相談ください。なお、会場の仕様で対応できかねる場合もございます。
- 会場壁面には一切の掲示物ができません。

◎発表データの登録について ※ PC 受付での発表データ登録が必要です。

- 発表開始の30分前までに(PC 持込の場合は1時間前までに)「PC 受付」にて発表データの登録・確認を行ってください。
※2日目のご発表データも1日目から登録できます。朝は混雑が予想されますので、お早めに登録をお願いいたします。
- 発表データはUSB メモリーにてお持ちください(CD-R 等はお受けできません)。
- PC 持込の場合は発表の30分前までに会場内左手前方のオペレーションデスクまでお越しください。
- 詳細は「PC 受付について」、「PC データ作成のお願い」の項目をご確認ください。

〈第5会場・第6会場のセッションの方へ〉

◎会場設備・備品

- PC 受付での発表データの登録は不要です。お持ち込みの PC での発表をお願いいたします。
- 発表用の PC は主催者でご用意ください。
- パソコン本体については HDMI のモニター出力端子が必要となります。
この端子が無い PC をお持ち込みの場合には、変換コネクタを必ずご用意ください。
- 詳細は、「PC データ作成のお願い」〈ノートパソコンの持ち込みについて〉の項目をご確認ください。
- 会場には、プロジェクター、スクリーン、マイク数本を用意しています。その他に必要な機材は各自で準備してください。
- 大型の機材・備品の持ち込みを希望される場合は、運営事務局（メール：jsnas21@higo.co.jp）へ事前にご連絡いただき、ご相談ください。なお、会場の仕様で対応できかねる場合もございます。
- 会場はスクール形式となっています。会場内の配置変更をする場合は、主催者が責任を持って設営準備をしてください。終了後は元の状態に戻し、次のセッションに支障をきたさないようお願いします。
- 会場壁面には一切の掲示物ができません。

■ PC 受付のご案内

- 講演会場で発表の演者の方は、セッション開始1時間前まで（早い時間のプログラムは受付開始時刻）に PC 受付にてデータチェックをお願いします。
- PC データ（発表データ）は、別途記載の内容をご確認の上、作成をお願いいたします。
- 発表会場によって PC 受付が異なります。ご注意ください。

〈PC 受付〉

発表会場	PC 受付	場所
第1会場～第3会場	PC 受付1	市民会館シアーズホーム夢ホール 1階 大ホールホワイエ 受付横
第4会場	PC 受付2	国際交流会館 6階 ホールロビー

〈受付時間〉

受付時間	10月14日（土） 8：30～16：00
	10月15日（日） 8：30～13：30

※15日午前中の演者は前日の受付をお薦めします。

■ PC データ作成のお願い

〈発表データについて〉

- 1) 発表者ツール(ノート閲覧)は使用できません。発表原稿が必要な方は、あらかじめプリントアウトをお持ちください。会場ではプリントアウトできません。
- 2) 発表会場にてご用意する PC は Windows10 です。スクリーンは1面のみです。
- 3) 発表データは USB メモリーにてお持ちください(CD-R 等はお受けできません)。
- 4) 受付可能データは Microsoft PowerPoint 2013以降、埋め込み動画は Windows Media Prayer (標準コーデック)にて再生可能なデータとさせていただきます。
- 5) フォントは OS 標準のものをご使用ください(MS フォントなど)。標準以外のものをご使用の場合、文字・段落のずれ・文字化け・表示されないなどのトラブルが発生する可能性があります。
- 6) PC 受付でのデータ修正は出来ませんのでご了承ください。
- 7) Mac にて作成されたデータは Windows にて展開いたしますので、事前に Windows PC にて確認しお持ちください。または PC (Mac) 本体をお持込ください。
- 8) PC 本体をお持ちいただく際は必ず電源アダプター、HDMI 出力端子変換をご持参ください。(D-sub15pin 端子はお受けできません)スクリーンセーバー・電源設定はオフにしてください。画面解像度・スクリーンセーバー・電源設定などを変更させていただく場合がございます。
- 9) 動画や音声のあるデータの場合は事前に別の Windows PC にて確認しお持ちください。
※動画や音声をご使用になる場合は、PC 受付にてお知らせ下さい。また、念のため PC 本体をお持込み願います。
- 10) 会場プロジェクターは HDMI 入力の 1920 × 1080 (16 : 9) をご用意いたします。
- 11) 発表データは 1920 × 1080 (16 : 9) 以内、1024 × 768 (4 : 3) 以上で作成お願い致します。また、発表データは必ず最新のウイルスチェックをお済ませいただいた上でご持参願います。
- 12) ファイルには、演題番号と筆頭演者名を入れてください(例: O1_1_ 看護太郎)。
- 13) 登録したファイルは、本学術集会終了後に消去いたします。

〈ノートパソコンの持ち込みについて〉

- Macintosh をご利用の場合は、パソコン本体をお持ちください。
- パソコン本体については HDMI のモニター出力端子が必要となります。
この端子が無い PC をお持ち込みの場合には、変換コネクターを必ずご用意ください。
- 発表時間の1時間前までに PC 受付までお持ちください。
試写用モニターにて外部出力の確認、キーパッド・マウスの接続と動作チェックをしてください。
- 画面解像度を 1024 × 768 ピクセルに設定し、スクリーンセーバ、省電力モード、パスワード設定 (Mac はホットコーナーも) を解除しておいてください。
- バッテリーに余力がある場合でも電源アダプターをお持ちください。
ご発表予定時間の30分前まで(講演中でも構いません)に会場内左手前方演台付近のオペレーションデスクまでお越しの上、スタッフにパソコンをお渡しください。スタッフがケーブルを接続し、外部出力の確認を行います。
- 発表者ツールは使用出来ません。ご発表は演台にセットされているモニターおよびキーボード、マウスをご使用ください。
- 念の為、バックアップデータ (USB) をお持ちください。
- 発表後はパソコンを預けたオペレーションデスクでパソコンをご返却いたします。
オペレーションデスクのスペースに限りがございますので、発表が終了しましたら出来るだけ速やかにパソコンのお引き取りをお願いします。

■発表演題に関する利益相反 COIの開示について

該当するCOIの状態について、口演は、タイトルスライドの次のページで開示してください。
ポスターは、ポスター発表内容の最後尾に掲載してください。
COIについては日本看護技術学会のCOI指針を参照し、様式1に従ってCOIを開示してください。

■一般演題(示説)について

一般演題(示説)の座長および発表者の方へ

I. 座長の方へ

- ご担当セッション開始時間15分前までに示説会場内の「示説受付」へお越しください。座長用のリボン(赤)と座長推薦演題の選出記入用紙をお渡しします。
- 発表者に欠席がでた場合は、発表時間を繰り上げて進行してください。
- 直前のセッションが繰り上げて終了しても、ご担当セッションは予定時刻に開始してください。
- ご担当セッションの進行は座長の方に一任いたします。
- 1演題10分(発表7分、質疑応答3分)です。時間厳守での進行をお願いします。
- 座長推薦演題の選出については、記入用紙を所定の封筒に入れ、示説受付の会場係にお渡しください。

II. 示説形式の演者の方へ

1. 発表について

- 発表時間について
一般演題(示説)発表時間：発表7分、質疑3分 合計10分です。時間厳守をお願いします。
- 発表者リボン(青)について
掲示パネルに掲示用のピン(画鋏)と発表者リボン(青)を設置しています。発表者リボンを着用してご発表をお願いします。
- 発表セッションの開始時間10分前までに示説会場内の「示説受付」にお立ち寄り頂き、その後ご自身のパネルの前で待機してください。
- 進行は各セッションの座長の指示に従ってください。

2. 一般演題(示説)掲出・発表・撤去スケジュール

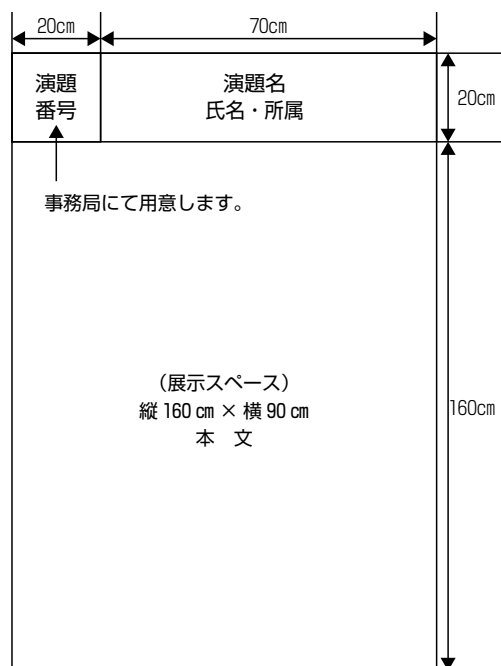
掲出(貼付)時間	撤去時間	示説会場
10月14日(土) 9:00～12:00	10月15日(日) 14:30～15:30	市民会館シアーズホーム夢ホール 2階 第7会議室

※2日目(10月15日)にご発表の方で、14日の貼付が難しい際は、15日9:00～10:30の時間で貼付してください。

※撤去時間を過ぎて残っているポスターは学術集会側で処分することもありますのでご了承ください。

3. 示説(ポスター)作成要領

- 掲示スペースは、1演題につき縦180cm×横90cm(左上に20cm×20cmの演題番号が入ります。演題番号は事務局側で用意します)のポスター掲示パネルを用意します。スペースに収まるようにポスターを作成してください。
- 演題番号の右側(縦20cm×横70cm)に演題名、筆頭発表者、共同発表者名、所属を明記してください。その他は、スペースに収まるよう、自由にレイアウトしてください。
- 該当するCOI状態について、ポスター下部に開示してください。開示内容は、口演形式と同様です。日本看護技術学会のCOI指針を参照し、様式1に従ってCOIを開示してください。



演題番号：20cm×20cm ※事務局にて用意します。

演題名：縦20cm×横70cm

本文：縦160cm×横90cm以内

※文字サイズは自由ですが、2～3メートル離れたところからでも判別できる大きさにしてください。

大会賞・座長推薦演題についてのご案内

第21回学術集会において、全ての一般演題を対象に大会賞・座長推薦演題の選出を行います。
選出された演題については、筆頭演者にご連絡いたします。また、学会ホームページ上でも発表をいたします。

研究活動推進委員会

総会のご案内

日 時：10月14日（土） 16:15～17:15

会 場：第1会場（市民会館シアーズホーム夢ホール 1階 大ホール）

タイムテーブル

1日目 10月14日(土)

市民会館シアーズホーム夢ホール				
	第1会場 1F 大ホール	第2会場 2F 大会議室	第3会場 2F 会議室5・6	示説会場 2F 会議室7
8:30	8:30～ 受付開始			
9:00	9:00～ 開会挨拶 9:10～9:40 キーセッション1 会長講演	ニューノーマル時代の 看護技術 演者：前田 ひとみ 座長：矢野 理香		9:00 ～ 12:00 ポ ス タ ー 掲 示
10:00	9:50～10:50 キーセッション2 特別講演 X線CT導入による考古学的 史観の変革 -土器中のタネや ムシが語る新たな世界- 演者：小畑 弘己 座長：前田 ひとみ			
11:00	11:00～12:00 キーセッション3 教育講演 ニューノーマルにおける技術教 育(シミュレーション教育を中心に) 演者：山内 豊明 座長：三笥 里香	11:00～12:00 交流セッション 1 倫理委員会の活動の紹介と、 委員会に期待すること	11:00～11:45 口演1群 体位・安楽 O1-1～O1-3 座長：大久保 暢子	
12:00				
13:00	共催：富士フィルムメディカル 株式会社	12:20～13:20 ランチョンセミナー 1 看護エコーをもっと身近に! 一看護現場の最前線- 演者：黒田 由依香、金子 尚子 松本 奈緒 座長：本田 和也	12:20～13:20 ランチョンセミナー 2 WHOによる携帯電話のリスク評価 演者：大久保 千代次 座長：高田 雄史 共催：電気安全環境研究所 電磁界情報センター	
14:00	13:30～14:30 キーセッション4 教育講演 睡眠研究の進展を看護技術と 交替勤務への最適化につなげる 演者：神林 崇 座長：松本 智晴	13:30～14:30 交流セッション 2 質の高い論文を目指した編 集委員会の活動の紹介 ～投稿規定及び審査制度の 変更について～	13:30～14:45 口演2群 看護教育 O2-1～O2-5 座長：上野 栄一	13:30～14:20 示説1群 看護教育 P1-1～P1-5 座長：伊藤 千晴
15:00	14:40～16:10 キーセッション5 シンポジウム 看護職による健康長寿支援 策:人生100年時代のメディカ ルフィットネスについて 演者：田中 喜代次、吉永 砂織 横山 有里、久米野 竜太 座長：鶴田 来美	14:40～16:10 交流セッション 3 看護技術の成果と診療報 酬化について考える ～技術研究成果検討委員会 の班活動の成果をもとに～		
16:00				15:30～16:10 示説2群 生活環境とケア P2-1～P2-4 座長：塚越 みどり
17:00	16:15～17:15 総 会			

国際交流会館			
第4会場 6F ホール		第5会場 4F 第3会議室	第6会場 4F 第1会議室
8:30			
9:00			
10:00			
11:00	11:00～11:45 口演3群 看護実践 O3-1～O3-3 座長：深井 喜代子		
12:00			
13:00			
14:00		13:30～15:00 交流セッション 4 移乗の新しいカテゴリー 「半起立移乗」と「回転盤」 を体験してみませんか	13:30～15:00 交流セッション 6 在宅医療における与薬をス マートに行う医療技術開発 と社会実装に向けた取組み
15:00	14:50～16:05 口演4群 血管・採血 O4-1～O4-5 座長：武田 利明	15:10～16:10 交流セッション 5 不規則な睡眠や体内時計の 乱れを整えるための第一歩、 測る技術 ―患者や交代制勤務 を行う看護師の健康のために―	15:10～16:10 交流セッション 7 おそらく最先端! Mixed Reality 教材を体験して、教 育におけるデジタル技術活用 のニューノーマルを考える
16:00			
17:00			

タイムテーブル

2日目 10月15日(日)

市民会館シアーズホーム夢ホール

	第1会場 1F 大ホール	第2会場 2F 大会議室	第3会場 2F 会議室5・6	示説会場 2F 会議室7
8:30				
9:00	9:00～10:30 交流セッション 8 理事会企画3学会合同セッション：エビデンスに基づく看護技術の創成が期待される看護系学会のチャレンジ	9:00～10:30 交流セッション 9 グリセリン浣腸を含む確かな排泄ケア技術について考える	9:00～10:00 口演5群 清潔ケア O5-1～O5-4 座長：岡田 淳子	
10:00			10:10～11:10 口演6群 その他 O6-1～O6-4 座長：田中 裕二	
11:00	10:40～12:10 キーセッション6 シンポジウム 新しい生活様式での子育て支援 演者：江上 千代美 田中 幸夫 石橋 美穂 座長：田中 美智子	10:40～12:10 交流セッション 10 基礎技術教育の神髄は細部に宿る その1 ーベッドメイキング。何を、どんな意図で、どのように教えていますか？		11:20～12:00 示説3群 刺激と反応 P3-1～P3-4 座長：茂野 香おる
12:00				
13:00	12:20～13:20 ランチョンセミナー 3 平時のワクチン生産・開発と次なる有事に向けた「産」としてのコミットメント～COVID-19パンデミックを踏まえて～ 演者：園田 憲悟 座長：荒尾 博美	共催：KMバイオリジクス株式会社		
14:00	13:45～14:45 キーセッション7 教育講演 看護技術の可能性ーCOVID-19パンデミック下での創造的実践からー 演者：川嶋 みどり 座長：角濱 春美	13:45～14:45 卒業研究交流セッション G-1～G-5 座長：伊部 亜希 矢野 理香	13:45～14:45 口演7群 看護実践 O7-1～O7-4 座長：須釜 惇子	13:45～14:25 示説4群 看護実践 P4-1～P4-4 座長：小池 祥太郎
15:00	14:45～15:00 閉会式			
16:00				
17:00				

国際交流会館			
第4会場 6F ホール		第5会場 4F 第3会議室	第6会場 4F 第1会議室
8:30			
9:00	9:00～10:00 口演8群 看護実践 O8-1～O8-4 座長：若村 智子	9:00～10:30 交流セッション 11 こんなのあったらいいな! 誤嚥を防ぎ笑顔を引き出す 食事ケアのためのポジショ ニング用具類の開発	9:00～10:30 交流セッション 13 ニューノーマル時代に考える 「気持ちよい」ケア 一変えてはいけない看護の本 質一緒に考えませんか?ー
10:00	10:10～11:10 口演9群 安全を志向する O9-1～O9-4 座長：篠崎 恵美子		
11:00		10:40～12:10 交流セッション 12 再考! 用具を使って安全、 安楽、自立を意識した移動 介助の“きほん”	10:40～12:10 交流セッション 14 研究活動推進委員会企画 第5回若手の会 若手研究者交流の場 ～若手研究者の悩みを共有 できるカフェテリアによろこそ～
12:00			
13:00			
14:00	13:45～14:45 口演10群 看護教育 O10-1～O10-4 座長：徳永 なみじ		
15:00			
16:00			
17:00			

プログラム

第1日目 10月14日(土) 会場：市民会館シアーズホーム夢ホール・熊本市国際交流会館

キーセッション1

9:10～9:40 会長講演

第1会場(市民会館)

座長：矢野 理香(北海道大学大学院 保健科学研究所)

ニューノーマル時代の看護技術

第21回学術集会長：前田 ひとみ(熊本大学 副学長／熊本大学大学院生命科学研究部 教授)

キーセッション2

9:50～10:50 特別講演

第1会場(市民会館)

座長：前田 ひとみ(熊本大学大学院 生命科学研究部)

X線CT導入による考古学的史観の変革 —土器中のタネやムシが語る新たな世界—

演 者：小畑 弘己(熊本大学大学院 人文社会科学研究部)

キーセッション3

11:00～12:00 教育講演

第1会場(市民会館)

座長：三笥 里香(熊本大学大学院 生命科学研究部)

ニューノーマルにおける技術教育(シミュレーション教育を中心に)

演 者：山内 豊明(放送大学大学院 文化科学研究科)

キーセッション4

13:30～14:30 教育講演

第1会場(市民会館)

座長：松本 智晴(熊本大学大学院 生命科学研究部)

睡眠研究の進展を看護技術と交替勤務への最適化につなげる

演 者：神林 崇¹⁾²⁾、千葉 滋¹⁾²⁾、入鹿山 容子³⁾、石戸 秀明¹⁾、森田 恵美¹⁾、
根本 剛¹⁾、近藤 英明⁴⁾、福住 昌司¹⁾、木村 昌由美¹⁾

1)筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIIS)、2)茨城県立こころの医療センター、
3)千葉大学 真菌医学研究センター、4)長崎大学 総合診療学分野

看護職による健康長寿支援策：人生100年時代のメディカルフィットネスについて

座長：鶴田 来美(宮崎大学 医学部 看護学科 生活・基盤看護科学講座)

運動療法からフィットネスの時代へ

演 者：田中 喜代次(筑波大学 名誉教授、株式会社 THF 代表取締役)

地域におけるメディカルフィットネスの展開
～子どもの頃からの健康づくり～

演 者：吉永 砂織(宮崎大学 医学部 看護学科)

フィットネス指導・支援の実際

演 者：横山 有里(有限会社マリエフィットネスサポート・健康運動指導士)

地域における介護予防・健康運動推進事業の実際

演 者：久米野 竜太(株式会社コクア 代表取締役・健康運動指導士)

倫理委員会の活動の紹介と、委員会に期待すること

○若村 智子¹⁾、前田 ひとみ²⁾、矢野 理香³⁾、西田 直子⁴⁾、藤本 ひとみ⁵⁾、徳永 なみじ⁶⁾

- 1) 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻、2) 熊本大学大学院 生命科学研究部、
3) 北海道大学大学院 保健科学研究所、4) 京都先端科学大学 健康医療学部 看護学科、
5) 福井医療大学 保健医療学部 看護学科、6) 愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護学科

看護エコーをもっと身近に！—看護現場の最前線—

座長：本田 和也(長崎医療センター)

携帯型エコー導入(排泄)の実際と工夫
—長崎医療センターの導入事例を通じて—

演 者：黒田 由依香¹⁾、金子 尚子¹⁾、本田 和也²⁾、清水 周二¹⁾、岩瀬 貴子³⁾、
岩崎 藤子¹⁾、太田 恵子¹⁾

- 1) 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 看護部、
2) 独立行政法人国立病院機構 長崎医療センター 統括診療部 脳神経外科 診療看護師(NP)、
3) 活水女子大学 看護学部

便秘ケアに関する先進的取り組み

演 者：松本 奈緒(社会医療法人社団高野会 大腸肛門病センター高野病院 看護部)

共催：富士フィルムメディカル株式会社

質の高い論文を目指した編集委員会の活動の紹介 ～投稿規定及び審査制度の変更について～

○前田 ひとみ¹⁾、岡田 淳子²⁾、大橋 久美子³⁾、岡田 忍⁴⁾、加藤木 真史⁵⁾、篠崎 恵美子⁶⁾、
塚越 みどり⁷⁾、長坂 猛⁸⁾、橋口 暢子⁹⁾、樋之津 淳子¹⁰⁾

1) 熊本大学大学院 生命科学研究部、2) 県立広島大学 保健福祉学部、3) 兵庫大学 看護学部 看護学科、
4) 千葉大学大学院 看護学研究院、5) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、6) 人間環境大学 看護学部、
7) 東海大学 医学部 看護学科、8) 宮崎県立看護大学 看護学部、9) 九州大学大学院 医学研究院 保健学部門 看護学分野、
10) 札幌市立大学 看護学部

看護技術の成果と診療報酬化について考える ～技術研究成果検討委員会の班活動の成果をもとに～

○大久保 暢子¹⁾⁷⁾、本庄 恵子²⁾、小野田 舞⁸⁾、加藤木 真史⁵⁾、河合 桃代⁴⁾、栗田 愛⁶⁾、
佐竹 澄子¹⁰⁾、西田 直子³⁾、野月 千春⁹⁾、水戸 優子⁵⁾、本館 教子⁷⁾

1) 聖路加国際大学、2) 日本赤十字看護大学、3) 京都先端科学大学 看護医療学部 看護学科、
4) 帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科、5) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、
6) 人間環境大学 看護学部 看護学科、7) 聖マリアンナ医科大学病院 看護部、8) 一般社団法人 看護系社会保険連合、
9) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 東京新宿メディカルセンター 看護部、10) 東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科

体位・安楽

座長：大久保 暢子(聖路加国際大学大学院 看護学研究科 ニューロサイエンス看護学)

01-1 意識障害のある脳卒中患者へ分割した30分の背面開放座位の有効性

○野尻 美菜、寺本 清美

荒尾市民病院

01-2 作成した腹臥位クッションとスライディングシートを併用して介助した腹臥位の安楽性

○大宮 裕子¹⁾、佐藤 彰紘²⁾、佐竹 澄子³⁾、堀田 涼子¹⁾

1) 目白大学 看護学部 看護学科、2) 目白大学 保健医療学部 作業療法学科、
3) 東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科

01-3 三角筋部の筋肉内注射部位の皮下組織と筋肉の厚みの特徴： 成人女性を対象とした注射部位と腕の肢位、把持方法による検討

○前田 耕助

東京都立大学大学院 人間健康科学研究科

WHOによる携帯電話のリスク評価

演 者：大久保 千代次

一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター 所長

WHO 国際電磁界プロジェクト 国際諮問委員会委員

共催：一般財団法人電気安全環境研究所 電磁界情報センター

口演2群

13:30～14:45

第3会場(市民会館)

看護教育

座長：上野 栄一(奈良学園大学 保健医療学部)

O2-1 看護学生に対する血圧測定技術教育に関するスコーピングレビュー

○吉田 実和、檜山 明子、高橋 葉子

札幌市立大学 看護学部 基礎看護学領域

O2-2 看護初学者の看護技術トレーニングシステムの開発と効果

—AR 法と手順書法との比較—

○水戸 優子¹⁾²⁾、森 朱輝¹⁾、長島 俊輔¹⁾、佐々木 杏子¹⁾、渡邊 恵¹⁾、加藤木 真史¹⁾、
萩原 典子²⁾

1) 神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、2) 国家公務員共済組合連合会 横浜共済病院

O2-3 コロナ禍における看護学生が抱く基礎看護技術習得への不安

○佐々木 重徳、竹田 理恵、佐藤 清湖、佐藤 由記子、木下 美佐子

仙台青葉学院短期大学 看護学科 基礎看護学領域

O2-4 コロナ禍における看護専門学校3年次の学生の看護技術到達度の実態

○尾崎 順子¹⁾、佐々木 陽子²⁾

1) 東京都 保健医療局 医療政策部 医療人材課(前 東京都立北多摩看護専門学校)、2) 東京都立青梅看護専門学校

O2-5 看護師が考える基礎看護教育で教授すべき「整容」の援助

○服部 美穂¹⁾、堀田 清司²⁾、為永 義憲¹⁾、篠崎 恵美子¹⁾

1) 人間環境大学 看護学部 看護学科、2) 中部大学 生命健康科学部 保健看護学科

看護教育

座長：伊藤 千晴(人間環境大学 看護学部)

P1-1 訪問看護ステーションにおける清潔ケア技術研修の意義○関口 亮子¹⁾、澁谷 幸²⁾、柴田 しおり³⁾、岩井 詠美²⁾、勝真 久美子¹⁾、佐々木 早苗¹⁾

1) なな一訪看護ステーション、2) 神戸市看護大学、3) 神戸常盤大学

P1-2 スピーチ導入が病棟スタッフのチームワークに与える影響

～看護職版チームワーク測定尺度(TMN)による実施前後の比較調査～

○塚本 紗己、川原 奈美

山鹿市民医療センター

P1-3 看護技術教育の実習・演習のCOVID-19蔓延後の変化：

医中誌 Web 版における2010年代と2020年代の論文題目のテキストマイニング比較

○前田 千佳¹⁾、城丸 瑞恵²⁾

1) 関東学院大学 看護学部、2) 札幌医科大学 保健医療学部 看護学科

P1-4 COVID-19の影響により生活援助技術の自己練習ができなかった学生の主観的技術習得度

○横山 友子、大泉 綾亮、青山 美智代

四條畷学園大学 看護学部

P1-5 ボランティア活動を行う看護学生の情動知能の変化○堀田 清司¹⁾、服部 美穂²⁾

1) 中部大学 生命健康科学部 保健看護学科、2) 人間環境大学 看護学部 看護学科

生活環境とケア

座長：塚越 みどり(東海大学 医学部 看護学科 基礎看護学)

P2-1 働く更年期女性の睡眠とQOLの関係○田中 美智子¹⁾、江上 千代美²⁾、松山 美幸²⁾、野末 明希³⁾、長坂 猛¹⁾

1) 宮崎県立看護大学、2) 福岡県立大学、3) 宮崎大学

P2-2 冷え症高齢者に対する皮膚触圧刺激の温度感覚および姿勢調節機能への影響○棚崎 由紀子¹⁾、奥田 泰子²⁾

1) 広島文化学園大学 看護学部、2) 広島文化学園大学大学院 看護学研究科

P2-3 男子大学生の冷え症の実態○久賀 久美子¹⁾、山田 修平²⁾、中平 紗貴子¹⁾、高橋 智哉¹⁾、二間瀬 明子¹⁾、笹尾 あゆみ¹⁾、青木 美香¹⁾、福良 薫¹⁾

1) 北海道科学大学 保健医療学部 看護学科、2) 東京医療保健大学 和歌山看護学部

P2-4 冷え性自覚の有無による騒音暴露時の皮膚血流変動の異同○西川 真野¹⁾、菅原 啓太¹⁾、大西 範和¹⁾²⁾

1) 三重県立看護大学 看護学部 看護学科、2) 三重県立看護大学大学院 看護学研究科 自然科学看護学

看護実践

座長：深井 喜代子(東京慈恵会医科大学大学院)

O3-1 HCU 看護師のユマニチュード実践に対する実態

○善 悠里花、多田 智鶴、本田 祐子

東邦大学医療センター 大橋病院 HCU 病棟

O3-2 ストレス環境下の手浴が交感神経活動へ及ぼす影響

— 指尖皮膚温および皮膚血流量を指標として —

○菅原 啓太¹⁾、竹野 絵理子²⁾、西川 真野¹⁾、大西 範和¹⁾³⁾

1) 三重県立看護大学 看護学部 看護学科、2) 公益財団法人三重県健康管理事業センター、

3) 三重県立看護大学大学院 看護学研究科 自然科学看護学

O3-3 拒食認知症高齢者が再び経口摂取ができるきっかけ食と環境設定についての実践報告○芳村 直美¹⁾、水戸 優子²⁾、三角 あゆみ¹⁾、小澤 公人¹⁾

1) 特定医療法人研精会 稲城台病院 食支援センター、2) 神奈川県立保健福祉大学

血管・採血

座長：武田 利明(前 岩手県立大学)

O4-1 血管拡張を目的とした温罨法が血中一酸化窒素 nitric oxide に与える影響○小池 祥太郎¹⁾、安田 佳永²⁾、及川 正広³⁾、矢野 理香⁴⁾

1) 青森県立保健大学、2) 北海道大学大学院 保健科学院、3) 岩手県立大学 看護学部、

4) 北海道大学大学院 保健科学研究所

O4-2 末梢静脈留置針挿入部位へのホットパックとタオルを用いた温罨法の静脈拡張効果

— 駆血帯装着後も静脈が細い女性を対象として —

○安田 佳永¹⁾、宍戸 穂²⁾、矢野 理香²⁾

1) 北海道大学大学院 保健科学院、2) 北海道大学大学院 保健科学研究所

O4-3 超音波血管エコーガイド下による静脈穿刺法の指導方法の現状

○小中野 和也

医療法人名古屋澄心会 名古屋ハートセンター

O4-4 看護師へのエコーガイド下穿刺教育内容の検討

○梶 幸代、高山 洋平、井浦 弥生

社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院

O4-5 学生が行う臥床患者への採血における全身姿勢と穿刺成功率との関係○田丸 朋子¹⁾、本多 容子²⁾

1) 梅花女子大学 看護保健学部 看護学科、2) 藍野大学 医療保健学部 看護学科

移乗の新しいカテゴリー「半起立移乗」と「回転盤」を体験してみませんか

○窪田 静¹⁾、大宮 裕子²⁾、大久保 暢子³⁾、佐竹 澄子⁴⁾、松石 健太郎⁵⁾、小林 由紀恵⁶⁾

1) 愛媛県立医療技術大学 保健科学部 看護学科、2) 目白大学 看護学部、3) 聖路加国際大学 看護学部、

4) 東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科、5) 長野保健医療大学 看護学部、6) 医療法人社団誠警会 新東京病院

不規則な睡眠や体内時計の乱れを整えるための第一歩、測る技術
—患者や交代制勤務を行う看護師の健康のために—○初治 沙矢香¹⁾²⁾、中本 五鈴³⁾、大澤 まどか⁴⁾

1) 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻、2) 日本学術振興会 特別研究員(DC1)、

3) 東北大学大学院 医学系研究科 保健学専攻、4) 慶應義塾大学 看護医療学部

在宅医療における与薬をスマートに行う医療技術開発と社会実装に向けた取組み

○掛田 崇寛、加藤 博之、松田 真由美、豊増 佳子、高柳 良太、洲崎 好香、難波 貴代、
廣川 聖子、荒木田 美香子、坂元 昇

川崎市立看護大学 看護学部

おそらく最先端！Mixed Reality 教材を体験して、
教育におけるデジタル技術活用のニューノーマルを考える

○松本 智晴、福重 真美、山本 麻起子、前田 ひとみ

熊本大学大学院 生命科学研究部 看護学分野

交流セッション8

9:00～10:30

第1会場(市民会館)

理事会企画3学会合同セッション：

エビデンスに基づく看護技術の創成が期待される看護系学会のチャレンジ

○水戸 優子¹⁾、武田 利明²⁾、佐伯 由香³⁾、須釜 淳子⁴⁾

1) 神奈川県立保健福祉大学、2) 前岩手県立大学、3) 愛媛大学、4) 藤田医科大学

キーセッション6

10:40～12:10 シンポジウム

第1会場(市民会館)

座長：田中 美智子(宮崎県立看護大学 看護人間学)

新しい生活様式での子育て支援

演 者：江上 千代美¹⁾、田中 幸夫²⁾、石橋 美穂²⁾

1) 福岡県立大学、2) 朝倉市役所

ランチョンセミナー3

12:20～13:20

第1会場(市民会館)

座長：荒尾 博美(熊本保健科学大学 保健科学部 看護学科)

平時のワクチン生産・開発と

次なる有事に向けた「産」としてのコミットメント

～COVID-19パンデミックを踏まえて～

演 者：園田 憲悟(KMバイオロジクス株式会社 研究開発本部 製品開発部長)

共催：KMバイオロジクス株式会社

キーセッション7

13:45～14:45 教育講演

第1会場(市民会館)

座長：角濱 春美(青森県立保健大学)

看護技術の可能性

—COVID-19パンデミック下での創造的実践から—

演 者：川嶋 みどり(日本赤十字看護大学/健和会臨床看護学研究所)

グリセリン浣腸を含む確かな排泄ケア技術について考える

○栗田 愛¹⁾、大久保 暢子²⁾、浪切 もり子³⁾、吉井 紀子⁴⁾、吉田 みつ子⁵⁾、道畑 恵利⁶⁾、
北川 那美⁷⁾、片山 恵³⁾、武田 利明⁸⁾

1) 人間環境大学 看護学部、2) 聖路加国際大学 看護学部、3) 葵訪問看護ステーション、
4) 大阪青山大学 健康科学部 看護学科、5) 日本赤十字看護大学 看護学部、6) 鶴ヶ島訪問看護ステーションピアラボ、
7) みんなのかかりつけ訪問看護ステーション藤が丘、8) 前 岩手県立大学

基礎技術教育の神髄は細部に宿る その1ーベッドメイキング。
何を、どんな意図で、どのように教えていますか？

○角濱 春美¹⁾、小池 祥太郎¹⁾、佐竹 澄子²⁾、青木 紀子²⁾、松島 正起³⁾

1) 青森県立保健大学 健康科学部 看護学科 基礎看護学領域、2) 東京慈恵会医科大学 医学部 看護学科、
3) 青森中央学院大学 看護学部

座長：伊部 亜希(敦賀市立看護大学)
矢野 理香(北海道大学大学院 保健科学研究院)

G-1 看護学生を対象としたマッサージローラーを用いた
下肢マッサージの腰部への生理学的影響および腰痛緩和効果の検証

○佐々木 理絵¹⁾、関 恵子²⁾、西岡 靖貴³⁾

1) 岐阜県総合医療センター、2) 滋賀県立大学 人間看護学研究院、3) 滋賀県立大学 先端工学研究院

G-2 看護師養成課程における基礎看護学領域でのノーリフティングケア教育に関する実態調査

○浅沼 るい¹⁾、木村 文香²⁾、浅野 茜³⁾、窪田 珠子³⁾、小島 亜美⁴⁾、佐藤 日向⁵⁾、
豊田 桃加⁶⁾、美谷島 隆也⁷⁾、原口 昌宏⁸⁾、松本 和史⁸⁾

1) 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 国府台病院、2) 公益財団法人がん研究会 有明病院、
3) 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター、4) 順天堂大学医学部附属練馬病院、
5) 独立行政法人国立病院機構 東京病院、6) 東京通信病院、7) 医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院、
8) 東京医療保健大学 東が丘看護学部

G-3 末梢静脈穿刺における穿刺困難の影響要因に関する文献検討

○森下 怜美¹⁾、橋口 暢子²⁾、松本 美晴²⁾

1) 九州大学大学院 医学系学府 保健学専攻、2) 九州大学大学院 医学研究院 保健学部門

G-4 医療従事者の個人防護具着用が熱ストレス及び作業パフォーマンスに及ぼす影響

○林田 菜穂¹⁾、能登 裕子²⁾、橋口 暢子²⁾

1) 九州大学大学院 医学系学府 保健学専攻、2) 九州大学大学院 医学研究院 保健学部門

G-5 騒音曝露中に行う暗算負荷が指尖の皮膚血流量や皮膚温に及ぼす影響

○村木 結南¹⁾、大西 範和²⁾³⁾

1) 三重県立総合医療センター、2) 三重県立看護大学 看護学部 看護学科、
3) 三重県立看護大学大学院 看護学研究科 自然科学看護学

清潔ケア

座長：岡田 淳子(県立広島大学 保健福祉学部)

O5-1 中堅看護師が清潔ケアを行う上で大切にしていること○立花 秀斗¹⁾、河井 亮佑¹⁾、寺島 弥佑奈¹⁾、石黒 美紅¹⁾、上野 栄一²⁾

1)富山市立富山市民病院、2)奈良学園大学 保健医療学部

O5-2 先行研究の内容分析から患者中心の「清拭」援助に向けた一考察

○門脇 淳子、菊地 由美

駒沢女子大学 看護学部 看護学科 基礎看護学領域

O5-3 厚手のディスプレイブルタオルが健康成人の皮膚および主観的評価に及ぼす影響の検討

○宍戸 穂、矢野 理香

北海道大学大学院 保健科学研究院

**O5-4 連日の弱圧清拭と通常圧清拭が高齢患者の皮膚バリア機能回復に及ぼす影響：
A within-person randomized controlled trial**○紺谷 一生¹⁾²⁾、吉田 真由美³⁾、渡邊 千亜紀³⁾、守田 明美³⁾、矢野 理香⁴⁾

1)北海道大学大学院 保健科学院、2)日本学術振興会 特別研究員(DC)、

3)社会福祉法人 北海道社会事業協会 余市病院、4)北海道大学大学院 保健科学研究院

その他

座長：田中 裕二(令和健康科学大学 看護学部)

**O6-1 看護学生へのハンドマッサージ教育効果の検証：
柔軟センサによる手技動作計測装置を用いたマッサージ技術評価を導入して**○関 恵子¹⁾、西岡 靖貴²⁾、伊丹 君和¹⁾

1)滋賀県立大学 人間看護学研究院、2)滋賀県立大学 先端工学研究院

**O6-2 熱布バックケアが自律神経活動に及ぼす影響
—青年期男性を対象として—**

○茂野 香おる、山田 悦子、坂下 貴子

淑徳大学 看護栄養学部 看護学科

**O6-3 短時間・短期間のマインドフルネスを意識した
セルフ呼吸法実践継続によるマインドフルネス特性の変化**○坂上 百重¹⁾²⁾、内山 美枝子²⁾

1)新潟大学 医学部 保健学科、2)新潟大学大学院 保健学研究科

O6-4 地域在住高齢女性の運動機能が下肢骨格筋へ及ぼす影響と生活習慣との関連○関 恵子¹⁾²⁾、杉本 吉恵³⁾、相原 ひろみ⁴⁾、土肥 美子³⁾、大泉 綾亮⁵⁾

1)大阪府立大学大学院 看護学研究科 博士後期課程、2)滋賀県立大学 人間看護学研究院、

3)大阪公立大学大学院 看護学研究科、4)愛媛大学 医学系研究科 看護学専攻、5)四條畷学園大学 看護学部

看護実践

座長：須釜 惇子(藤田医科大学 社会実装看護創成研究センター)

07-1 脳梗塞患者の機械浴可否の判断フローチャート試用による妥当性の検証○堀元 美紗子¹⁾、篠崎 恵美子²⁾

1) 椋山女学園大学 看護学部、2) 人間環境大学 看護学部

07-2 腰椎軟性装具を使用している脊椎疾患患者の排泄動作についての実態調査

○小谷 悠貴、笹森 正子

医療法人社団 紺整会 船橋整形外科病院

07-3 看護業務支援アプリケーションの開発・運用が業務効率性に与える影響○香川 将大¹⁾²⁾

1) 東都大学 幕張ヒューマンケア学部 看護学科、2) NPO 法人 生体機能探査推進機構

07-4 看護としてのアロマセラピーの意義

～慢性疼痛を抱えたパーキンソン病患者へのアロママッサージを通して～

○青山 泉

杏林大学 保健学部 看護学科 看護養護 教育学専攻

刺激と反応

座長：茂野 香おる(淑徳大学 看護栄養学部)

P3-1 味覚刺激が中枢神経系および自律神経系に及ぼす影響について○田中 裕二¹⁾、岩倉 真由美²⁾

1) 令和健康科学大学 看護学部 生体看護学専門領域、2) 令和健康科学大学 看護学部 老年看護学専門領域

P3-2 ふれる技術の構築のための検証 ―触圧覚と持続時間の生理的検証―○久保田 里奈¹⁾、社本 生衣²⁾

1) ときわクリニック、2) 岐阜大学 医学部 看護学科

P3-3 唾液分泌量と口腔環境に関する文献検討

―現状と多職種アプローチについて焦点をあてて―

○渡辺 奏子¹⁾、川口 聖矢²⁾、杉本 葵³⁾、片田 裕子⁴⁾1) 富山県立中央病院、2) 医療法人社団輝生会 船橋市立リハビリテーション病院、3) 金沢医科大学 氷見市民病院、
4) 公立大学法人富山県立大学 看護学部**P3-4 日本の気候を模したリアルライフ条件での女性の皮膚特性の日内変動**○大澤 まどか¹⁾、若村 智子¹⁾、初治 沙矢香¹⁾²⁾

1) 京都大学大学院 医学研究科 人間健康科学系専攻、2) 日本学術振興会 特別研究員(DC1)

看護実践

座長：小池 祥太郎(青森県立保健大学)

P4-1 非挿管下腹臥位療法を実施した、COVID-19中等度患者への呼吸援助の考察
～酸素飽和度とボルグスケールを活用して～

○和田 美恵、高橋 恭美

独立行政法人労働者健康安全機構 九州労災病院門司メディカルセンター

P4-2 ベッド上腹臥位における胸部クッションの挿入が換気に与える影響○佐藤 彰紘¹⁾²⁾、大宮 裕子³⁾

1) 目白大学 保険医療学部 作業療法学科、2) 東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科 人間生活学専攻、

3) 目白大学 看護学部 看護学科

P4-3 離床センサー設定基準統一前後の離床センサー作動回数と転倒転落件数の変化

○小林 麻美

地方独立行政法人 福岡市立病院機構 福岡市民病院

P4-4 カラーテープを用いた認知症治療病棟における転倒予防効果の検討○本多 容子¹⁾、田丸 朋子²⁾

1) 藍野大学 医療保健学部 看護学科、2) 梅花女子大学 看護保健学部 看護学科

看護実践

座長：若村 智子(京都大学大学院 医学研究科 生活環境看護学分野)

O8-1 ICU ダイアリー導入による見当識への効果○藤掛 瑞希¹⁾、村上 綾乃¹⁾、高山 洋平²⁾、坂本 美賀子¹⁾

1) 済生会熊本病院 集中治療室、2) 済生会熊本病院 救命救急センター HCU/HCU

O8-2 介護老人福祉施設における音環境とは
—ケアに関わる専門職による評価から— 第1報○佐々木 絵美¹⁾、深井 喜代子²⁾

1) 関東学院大学 看護学部 看護学科 基礎看護学領域、2) 東京慈恵会医科大学

O8-3 下肢骨折患者の静脈血栓塞栓症に対する予防ケアの実施状況調査から見た課題

○星原 絵美里、大坂間 ひろみ

社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院

O8-4 脳神経外科病棟看護師の意識レベルの低い患者への「気持ちよさ」をもたらすケアの体験

○安森 友香

聖路加国際大学 基礎看護・看護技術学

安全を志向する

座長：篠崎 恵美子(人間環境大学 看護学部)

O9-1 在宅療養者の手指衛生介入と微生物除去の実証

○松本 由恵¹⁾、岡田 淳子²⁾、越道 香織³⁾

1) 日本赤十字広島大学 看護学部、2) 県立広島大学 保健福祉学部、3) 広島県立三次看護専門学校

O9-2 医療依存度の高い在宅療養者の手指汚染と環境表面汚染の実態

○越道 香織¹⁾、松本 由恵²⁾、岡田 淳子³⁾

1) 広島県立三次看護専門学校、2) 日本赤十字広島看護大学、3) 県立広島大学

O9-3 指先に焦点を当てた聴覚・視覚情報提供による一般市民の擦式手指消毒範囲への影響

○佐々木 愛結実¹⁾、吉田 芽生²⁾、小岩井 未桜³⁾、古賀 愛梨⁴⁾、荒澤 侑奈¹⁾、
加ヶ尾 里咲¹⁾、木根渕 夏子⁵⁾、笹本 彩夏⁶⁾、久保田 貴博⁷⁾、内山 孝子⁸⁾1) 国立病院機構 東京医療センター、2) 独立行政法人国立病院機構 東京病院、3) 学校法人 日本医科大学付属病院、
4) 東邦大学医療センター大森病院、5) 独立行政法人 健康長寿医療センター、
6) 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立多摩南部地域病院、7) 東京医療保健大学 東が丘看護学部、
8) 神戸市看護大学

O9-4 ミトン拘束がミトン内環境および手部の快適性に及ぼす影響

ーミトン内温湿度・手部の汚れ・主観的評価からー

○中村 日向子¹⁾、岩崎 歩音²⁾、北川 佳歩³⁾、木下 佳穂⁶⁾、清水 茉尋²⁾、西尾 杏美²⁾、
村中 舞華⁴⁾、山岸 未来⁵⁾、ハーネド 明香⁷⁾、高橋 智子⁷⁾1) 社会福祉法人 東京都済生会中央病院、2) 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター、
3) 国家公務員共済組合連合会 九段坂病院、4) 公益社団法人川崎市病院協会 川崎市立井田病院、
5) 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立広尾病院、6) 元 東京医療保健大学 東が丘看護学部、
7) 東京医療保健大学 東が丘看護学部

看護教育

座長：徳永 なみじ(愛媛県立医療技術大学 保健科学部看護学科)

O10-1 視線分析を活用した看護教員の臨床推論を可視化する教育メソッド開発

○工藤 悦子¹⁾、和田 ゆい¹⁾、難波 亨¹⁾、山崎 公美子¹⁾、齋藤 道子²⁾、進藤 ゆかり¹⁾

1) 日本医療大学 保健医療学部 看護学科、2) 独協医科大学 看護学部

O10-2 菌の飛散を可視化した口腔ケア VR 体験による看護大学生の気づきと学び

○山本 麻起子、松本 智晴、福重 真美、前田 ひとみ

熊本大学大学院 生命科学研究部

O10-3 基礎看護学実習Ⅱに向けた基礎看護技術のシミュレーション教育における学生の学び

○竹田 理恵、佐々木 重徳、佐藤 清湖、佐藤 由記子、木下 美佐子

仙台青葉学院短期大学 看護学科

O10-4 セルフケア能力向上を目的とした患者教育の実践と患者による自己血圧測定の実践

○築地 さなえ、白鷹 雅美、濱田 伸也

社会福祉法人恩賜財団 済生会熊本病院

こんなのあったらいいな！

誤嚥を防ぎ笑顔を引き出す食事ケアのためのポジショニング用具類の開発

○迫田 綾子¹⁾、芳村 直美²⁾

1)POTT プロジェクト、2)特定医療法人研精会 稲城台病院

再考！ 用具を使って安全、安楽、自立を意識した移動介助の“きほん”

○西田 直子¹⁾、水戸 優子²⁾、若村 智子³⁾、平田 美和⁴⁾、首藤 英里香⁵⁾、富田川 智志⁶⁾、
國澤 尚子⁷⁾

1)京都先端科学大学 健康医療学部 看護学科、2)神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学部 看護学科、
3)京都大学 医学部 人間健康科学科、4)帝京大学 医療技術学部 看護学科、5)札幌保健医療大学 保健医療学部 看護学科、
6)日本福祉大学 健康科学部 リハビリテーション学科 介護学専攻、7)埼玉県立大学 保健医療福祉学部 看護学科

ニューノーマル時代に考える「気持ちよい」ケア

ー変えてはいけない看護の本質一緒に考えませんか？ー

○河合 桃代¹⁾、澁谷 幸²⁾、東郷 美香子³⁾、内山 孝子²⁾、中山 久美子³⁾、茂野 香おる⁴⁾⁵⁾、
縄 秀志⁶⁾、佐居 由美⁶⁾、加藤木 真史⁷⁾、川嶋 みどり⁸⁾

1)帝京平成大学 ヒューマンケア学部 看護学科、2)神戸市看護大学、3)健和会 臨床看護学研究所、
4)淑徳大学 看護栄養学部、5)淑徳大学大学院 看護学研究科、6)聖路加国際大学 看護学研究科、
7)神奈川県立保健福祉大学 保健福祉学、8)日本赤十字看護大学 名誉教授

研究活動推進委員会企画 第5回若手の会 若手研究者交流の場

～若手研究者の悩みを共有できるカフェテリアによろこそ～

○小池 祥太郎¹⁾、長島 俊輔²⁾、佐々木 新介³⁾

1)青森県立保健大学、2)神奈川県立保健福祉大学、3)岡山県立大学

キーセッション

ニューノーマル時代の看護技術

第21回学術集会会長：前田 ひとみ

熊本大学 副学長／熊本大学大学院生命科学研究部 教授

人間の1000万分の1にも満たない小さな新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)は、2020年から地球上の人々の健康と暮らしだけでなく、社会経済にも大きな影響を及ぼしてきました。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は感染症法上は五類感染症に移行しましたが、当分の間はSARS-CoV-2と共存する生活は避けられそうにありません。コロナ禍では、COVID-19の感染拡大予防のために看護実践の創意工夫が施され、新たなケア方法が創出されました。また、人との接触を避けるためにデジタル化が導入され、オンライン診療等、保健医療の変革が急速に進みました。デジタル化や人工知能を導入することで事務作業が整理され、看護本来の業務に従事できる時間の確保という看護分野への大きな恩恵がもたらされることも期待できます。看護基礎教育においては、対面での学内演習や臨地実習の制限に対応するために、仮想空間と現実空間を融合させたシステムによる看護技術教育の媒体も開発が進んできました。この数年のコロナ禍により、人々の価値観は大きく変化し、これまでの常識が通用なくなり、新たな常識へと考え方の変更を求められる時代となりました。

感染対策のための「新しい生活様式」の例としては、厚生労働省から、基本的感染対策として、「人との間隔はできるだけ2m(最低1m)空ける。」「会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。」等が示され、人々は症状がなくてもマスク着用の生活が常識となりました。COVID-19が五類感染症に移行した今、更なる新たな常識へと考え方の変更を求められています。少子高齢化によるケアニーズの複雑化に対し、限りある資源を有効に使い、質の高い看護を提供するためには、保健医療サービスの仕組みの改革とともに、時代に即した高度な看護技術の開発と看護実践の挑戦が求められます。内閣府の第6期科学技術・イノベーション基本計画では、我が国は既存する少子高齢化等に加え、新たな課題として深刻化する自然災害、科学技術の国際競争力の低下等に直面しており、これらの解決には様々な学問分野の垣根を越えた「総合知」と多様な「知」の創造による社会全体の再設計が欠かせないことが強調されています。

会長講演では、コロナ禍で生じた課題に対し、私共が現

在チームで取り組んでいるクロスリアリティによる教材開発とコミュニケーション支援ツールとして開発中のウェアラブルなマイクを紹介します。これらは、今後、新たなパンデミックが生じたとしても看護の優れた技術の提供に貢献できる新たな常識のツールとなると考えています。

略 歴

〈学 歴〉

1981年3月	熊本大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程 卒業
1984年4月	熊本大学大学院医学研究科 研究生
1994年4月	博士(医学) 学位授与
2012年3月	名古屋市立大学大学院看護学研究科 博士後期課程 修了 博士(看護学) 学位授与

〈職 歴〉

1981年4月	熊本大学教育学部 教務員
1987年4月	熊本大学教育学部 助手
1993年12月	アメリカ合衆国国立癌研究所 retrovirology section 研究員
1996年4月	熊本大学医療技術短期大学部 助教授
1999年1月	熊本大学医療技術短期大学部 教授
2001年4月	宮崎大学医学部看護学科 助教授
2007年4月	熊本大学大学院生命科学研究部看護学講座 教授
2018年4月	熊本大学大学院保健学教育部 部長
2021年4月	熊本大学 副学長
現在に至る	

一般演題

口 演

O1-1 意識障害のある脳卒中患者へ分割した30分の背面開放座位の有効性

○野尻 美菜、寺本 清美

荒尾市民病院

【目的】意識障害のある脳卒中患者に対し、有効とされる背面開放座位30分を分割して施行する事で、意識レベルの改善や摂食機能にどのような影響があるか明らかにする。

【方法】

1. 対象者：一般病棟入室後のJCSⅡ桁の脳卒中患者3名
2. 研究期間：2022年5月～10月
3. 方法：
 - 1) 日本看護技術学会の「背面開放座位ケアをどのように実践していくか」を受講した看護師4名が指導者となり、他20名に技術指導を行う。
 - 2) 大久保らの背面開放座位の手順を参考に、プロトコールと中止基準を作成する。
 - 3) 対象者に看護師2名で、午前午後の15分ずつ(計30分)実施する。
 - 4) 背面開放座位実施中の患者の状態を、広南スコア・JCS(重度10点、高度9点、中等度8点または7点、軽度5点、極軽度0点)を用いて評価する。

【倫理的配慮】対象患者の症状の変化や状態の悪化時に備え、医師のバックアップ体制を整え中止基準を作成し、利益や負担への配慮を行う。

【結果】

1. A氏(発症38日目、介入期間66日間)

広南スコアの10点から0点まで改善した項目は「発声と意味のある発語」(介入12日目)、「表情変化」(介入26日目)であった。8点から0点まで改善した項目は「簡単な従命と意思疎通」(介入27日目)、「眼球の動きと認知度」(介入27日目)であった。10点から5点まで改善した項目は「自力摂食」(介入16日目)であった。意識レベルは、介入前のJCS10から介入2日目にJCS3、14日目にJCS2となった。

2. B氏(発症16日目、介入期間62日間)

広南スコアの10点から0点まで改善した項目は「発声と意味のある発語」(介入61日目)、「自力摂食」(介入54日目)であった。9点から0点まで改善した項目は「眼球の動きと認知度」(介入61日目)であった。9点から5点まで改善した項目は「簡単な従命と意思疎通」(介入37日目)であった。10点から7点まで改善した項目は「表

情変化」(介入37日目)であった。意識レベルは、介入前のJCS20から介入2日目にJCS10～3、19日目にJCS3となった。

3. C氏(発症9日目、介入期間35日間)

広南スコアの10点から0点まで改善した項目は「自力摂食」(介入23日目)であった。8点から0点まで改善した項目は「表情変化」(介入31日目)、5点から0点まで改善した項目は「発声と意味のある発語」(介入8日目)、「簡単な従命と意思疎通」(介入20日目)であったが、これらの意識に関わる4項目は改善と悪化を繰り返した。意識レベルは介入前のJCS10から介入2日目にJCS3、33日目にJCS1となった。

【考察】A氏は発症38日目の介入であったが、交感神経や大脳機能の活性化につながり意識が覚醒したため、言語・非言語によるコミュニケーションに関連した広南スコア項目が1か月以内で改善したと考える。

B氏は左被殻出血による前頭葉・側頭葉の広範囲に大脳の病変があった。そのため大脳機能の不活化があり「眼球の動きと認知度」の項目は、時間を要したが極軽度まで改善が見られた。しかし「表情変化」の項目は、介入37日目以降の改善が見られなかった。また、左脳の言語中枢(運動性失語)の障害により「発声と意味のある発語」の項目は時間を要したが、極軽度まで改善し、難易度の高い「簡単な従命と意思疎通」の項目は、介入37日目以降改善が中等度までしかみとめなかった。

C氏は発症9日目に介入した事で、早期に自律神経を刺激し覚醒を促した結果、31日以内に広南スコアのすべての項目において改善した。しかし「発声と意味のある言葉」「簡単な従命と意思疎通」「眼球の動き」「表情の変化」は改善・悪化を繰り返した。この事は、意識維持機構の重要な役割である視床に病変があるため、病態による意識障害の変動が広南スコア評価の改善と悪化に影響した原因と考える。

3症例とも「自力摂食」では、経管栄養から経口摂取へ移行した。この事は背面開放座位による意識レベルの向上と頸部の自力保持が、摂食姿勢を整え嚥下機能の向上に繋がり、経口摂取できる結果をもたらした。

日本看護技術学会第21回学術集会 講演抄録集

2023年9月発行

学術集会長：前田ひとみ（熊本大学 副学長／熊本大学大学院生命科学研究部 教授）

事務局：熊本大学大学院生命科学研究部 基盤看護学講座
〒862-0976 熊本市中央区九品寺4-24-1

運営事務局：株式会社コンベンションサポート九州
〒862-0975 熊本市中央区新屋敷1-14-35
クロススクエア熊本九品寺7F-F
TEL：096-373-9188 FAX：096-373-9191
E-mail：jsnas21@higo.co.jp

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>



PROCEEDINGS OF THE 21st ACADEMIC CONFERENCE
JAPANESE SOCIETY OF NURSING ART AND SCIENCE
IN KUMAMOTO